

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科

【概要】

ヨーロッパやアメリカの文化の根底にキリスト教文化があることは周知の通りである。1999年4月、人文学部欧米文化学科と総合研究所の日本アングロ・アメリカ研究センターを基礎に、アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科は設立された。本研究科では、これまでの日本の大学に欠落していた、アメリカ・ヨーロッパ文化の根源にあるキリスト教理解をベースに、深く新しい文化学の構築をめざし、グローバリゼーションの理念と現実に基づく国際的視野と教養を持つ人材を育成する。

【アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科ポリシー】

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、人文学の立場から、アメリカ・ヨーロッパ文化および世界のグローバル化の中での日本文化の深層理解に学問的に対応できる能力と幅広い教養を修得し、かつ専攻分野における研究能力または高度な専門性を要する職業に必要な能力をもつ者に修士（アメリカ・ヨーロッパ文化学）を授与する。

博士後期課程は、新しいアメリカ・ヨーロッパ文化学および日本文化学の総合的視点にたった専門的見地から、多様化する社会において自立した研究者として貢献する専門的知識と研究方法を習得し、高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力をもつ者に博士（学術）を授与する。

カリキュラム・ポリシー

1. 博士前期課程は、アメリカ・ヨーロッパ文化学の教育目標であるキリスト教理解を基盤にした新しいアメリカ・ヨーロッパ文化学の教育と研究を実現する科目群として共通必修科目を設置する。
2. また博士前期課程に、学生の専門的ニーズに応える科目群として「アメリカ文化学」「ヨーロッパ文化学」「キリスト教文化学」「日本文化学」の講義課目を設置する。
3. 博士後期課程は、いわゆる単位制を取らず、学生に対して正副2名の指導教授が学生の研究分野に対して専門的な研究指導をする「特殊研究科目」をおく。
4. また博士後期課程は、「博士論文提出資格試験」を課すほか、2編以上の小論文の作成（博士論文に関するもの）と公開研究会での発表、および語学試験の合格あるいは履修という条件で構成される。
5. 博士論文提出資格試験に合格した者に対して「予備審査用の博士論文」を提出させ、これに合格した者が博士学位申請論文を提出しうるものとする。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程

1. ジェネラリストとして、グローバリゼーションの理念に基づき、自治体、民間レベルの文化交流・国際的業務に携わることをめざす人を求める。
2. アメリカ・ヨーロッパ・キリスト教文化を深く理解し、あらゆる分野で国際的信頼関係に基づいた活動をめざす人を求める。
3. 語学力とともに、国際的な価値観・センスを身につけることをめざす人を求める。
4. 深く新しいアメリカ・ヨーロッパ文化教育に携わることをめざす人を求める。

博士後期課程

新しいアメリカ・ヨーロッパ文化学の構築を目的とし、自立した専門的研究活動を遂行することをめざす人を求める。

【コース説明】

アメリカ文化学コース

アメリカの文化や社会を形成してきた思想が現代の社会に与えた影響をはじめ、アメリカの政治、経済などの政策の根底にあるものを解明するため、キリスト教がアメリカでどのように展開されてきたのか、また、どのようにアメリカ独自の思想が発展してきたのか、さらにはその思想に基づき、建国以来、アメリカがどのように政治外交政策、社会政策をとってきたのかを研究することを通じてアメリカ文化を深く探求する。

ヨーロッパ文化学コース

ヨーロッパではEUの統合、共通ユーロの誕生など、国民国家を超えた新しい動向としてのグローバリゼーションが台頭してきたが、その後この状況も刻一刻と変化してきている。そこで、EUの成立の基盤となった思想を明らかにし、文化変容の問題や文化の比較等を研究する。さらに、キリスト教思想が哲学、文学、芸術などのヨーロッパ文化全般に与えた影響を深く探究する。

キリスト教文化学コース

世界をリードするアメリカ・ヨーロッパ文化の根底にあるキリスト教思想が、古代から現代までどのように展開したのか、欧米文化にどのような影響を与えたのかを歴史的に解明する。特に、ニーバー、キング、ガンジーなどの諸説から“近代世界とキリスト教”的関わりを重点的に研究。さらに、キリスト教思想から現代をどのように理解するかをも追究する。

日本文化学コース

日本の思想・文化における倫理観の変遷と意味、明治期以降のプロテstant・キリスト教の影響、さらにコトバへの感性を通して日本文化のなかの語彙の地層を深め、近代日本における民主主義の根底を追求する。

2019年度 大学院【文化研】カリキュラム

コース	授業科目	担当者	単位		開講期			対象学年	備考
			必修	選択	春学期	秋学期	その他		
アメリカ文化学	アメリカ・ヨーロッパ文化学総論	オムニバス	2		○			1	必修
	アメリカ文化学研究A	千葉 真		4	○			1	
	アメリカ文化学研究B	島田由紀		2	○			1	
	アメリカ文化学研究C	森田美千代		4	○			1	
ヨーロッパ文化学	ヨーロッパ文化学研究A	片柳栄一		4	○			1	
	ヨーロッパ文化学研究B	和田光司		2	○			1	
	ヨーロッパ文化学研究C	休講		4				1	
	ヨーロッパ文化学研究D	休講		4				1	
キリスト教文化学	キリスト教文化学研究A	関根清三		4	○			1	
	キリスト教文化学研究B	柳田洋夫		2		○		1	
	キリスト教文化学研究C	菊地 順		2		○		1	
	日本文化学研究A	清水正之		4	○			1	
日本文化学	日本文化学研究B	村松 晋		2	○			1	
	日本文化学研究C	休講		2				1	
	研究方法特論I	森田美千代		2	○			1	
	研究方法特論II	森田美千代		2		○		1	
研究科目	文献講読A(日本文化学)	清水 均		2	○			1	
	文献講読B(日本文化学)	濱田 寛		2	○			1	
	文献講読C(ヨーロッパ文化学)	和田 光司		2		○		1	
	文献講読D(キリスト教文化学)	休講		2				1	
原典講読	原書講読A (英語)	氏家理恵		2	○			1	
	原書講読B (英語)	氏家理恵		2		○		1	
	原書講読A (独語)	休講		2				1	
	原書講読B (独語)	休講		2				1	
原書講読	原書講読A (仏語)	休講		2				1	
	原書講読A (ラテン語)	片柳栄一		2	○			1	
	原書講読B (ラテン語)	片柳栄一		2		○		1	
	原書講読A (ヘブライ語)	関根清三		2	○			1	
演習科目	原書講読B (ヘブライ語)	関根清三		2		○		1	
	原書講読A (ギリシャ語)	休講		2				1	
	原書講読B (ギリシャ語)	休講		2				1	
	アメリカ文化学A演習I	千葉 真		4		○		1	
演習	アメリカ文化学B演習I	休講		4				1	
	アメリカ文化学C演習I	森田美千代		4		○		1	
	ヨーロッパ文化学A演習I	片柳栄一		4		○		1	
	ヨーロッパ文化学B演習I	休講		4				1	
演習(研究指導)	ヨーロッパ文化学C演習I	休講		4				1	
	キリスト教文化学A演習I	関根清三		4		○		1	
	キリスト教文化学B演習I	休講		4				1	
	日本文化学A演習I	清水正之		4		○		1	
科 目	日本文化学B演習I	村松 晋		4		○		1	
	日本文化学C演習I	休講		4				1	
	アメリカ文化学A演習II	千葉 真		4		○		2	
	アメリカ文化学B演習II	休講		4				2	
科 目	アメリカ文化学C演習II	森田美千代		4		○		2	
	ヨーロッパ文化学A演習II	休講		4				2	
	ヨーロッパ文化学B演習II	休講		4				2	
	キリスト教文化学A演習II	休講		4				2	
科 目	キリスト教文化学B演習II	休講		4				2	
	日本文化学A演習II	清水正之		4		○		2	
	日本文化学B演習II	村松 晋		4		○		2	
	日本文化学C演習II	休講		4				2	
修了要件	30単位以上、かつ修士論文またはそれに代わる研究成果を提出し審査に合格すること。								

○印：週1回授業 ◎印：週2回授業

演習科目関連の科目選択

2演習計8単位以上
選択必修

1演習選択必修

2019博士後期課程カリキュラム							
授業科目		担当者	開講期			対象学年	備考
特殊研究科目	アメリカ文化学特殊研究	千葉 哲/森田美千代	*	集中			1科目選択必修
	ヨーロッパ文化学特殊研究	片柳榮一/氏家理恵	*	集中			
	キリスト教文化学特殊研究	関根清三/島田由紀	*	集中			
	日本文化学特殊研究	清水正之	*	集中			
	総合文化学特殊研究	吉川保弘/藤掛 明/窪寺俊之	*	集中			
	アメリカ文化学特殊演習	千葉 哲/森田美千代		◎			
一般履修科目	ヨーロッパ文化学特殊演習	片柳榮一		◎		1	1科目選択必修
	キリスト教文化学特殊演習	関根清三		◎			
	日本文化学特殊演習	清水正之/村松 晋		◎			
	総合文化学特殊演習	他研究科演習担当教員		◎			

*印：院生と教員間の調整による研究指導

◎印：週2回授業

政治政策学研究科

【概要】

政治政策学研究科は、近代デモクラシー思想の根源的研究を通じて、“理念から政策へ”という展開を基盤にして、世界と社会に貢献できる理論と実学の知識を備えた人材を育成する。“精神なき専門人”ではなく、幅広い教養と豊かな精神を持った専門人の養成を目指す研究科である。

【政治政策学研究科ポリシー】

ディプロマ・ポリシー

問題の発見や解決策の立案などに関する専門知識および幅広い教養と豊かな精神を高め、かつ専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業（特に税理士）等に必要な能力を養成する。

以上のような目途に即した学業をなし、本研究科所定の単位を修得し、修士論文（または論文に代わる研究成果）の審査に合格した学生に、修士（政治学）の学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー

キリスト教政治思想（政治哲学）と人権尊重を根底に据えた政治や政策の理念を学修する科目群として「共通基礎」を設置し、学生の専門的ニーズに応えるための科目群として「政治・政策分野」「税法分野」「経済・経営分野」「地域共生分野」の「講義科目」を設置する。

アドミッション・ポリシー

1. デモクラシー思想を基盤とする問題発見・解決をめざす人を求める。
2. 地域の自治体や企業体等の職員・社員として高度な専門的職業人をめざす人を求める。
3. 高等学校・中学校の社会科教員としてより深い知識の修得をめざす人を求める。
4. 幅広い視野と学問的能力の向上を図りながら、税理士など専門職をめざす人を求める。
5. 生涯学習の一環あるいは、社会貢献活動の充実のため高度専門的学修をめざす人を求める。

【科目群説明】

政治・政策分野

キリスト教的理念に基づき、近代デモクラシー思想を批判的に検討することを通じて、現代社会に貢献できる政治学的、法学的、社会学的理論と政策に関する知識を修得する。

税法分野

各税法及び関連する民事法の講義や租税判例等による演習を通じて、税理士試験税法科目免除に対して便宜を図るのみでなく、職業専門家、研究科として必要な研究能力の充実を図る。

経済・経営分野

日本経済の政策、事象などを対象に、経済学の理論を活用した分析力を拡充するとともに、多様な組織の経営にとって重要な意思決定手法を学ぶ。

地域共生分野

市民の生活などの場である地域社会を、市民参加、文化、公共政策の多角的視点から総合的に研究し、多様な市民が共に生き生きと暮らせる地域社会の在り方を探求する。

2019年度 大学院【政策研】カリキュラム

科目群	授業科目	担当者	単位		開講期			対象学年	備考
			必修	選択	春学期	秋学期	その他		
共通基礎	政治政策学研究	オムニバス		2	○			1	1科目以上選択必修 1・2年次選択
	デモクラシー・人権研究	谷口/菊地		2		○		1	
	研究方法特論A	柴田武男		2		○	集中	1	
	研究方法特論B	木村裕二		2		○	集中	1	
研究科目	政治学研究	宮本 悟		2	○		集中	1	(演習科目関連の講義科目履修) 1・2年次選択
	政治理論研究	高橋愛子		2		○		1	
	公共政策研究	児玉博昭		2		○		1	
	憲法研究	石川裕一郎		2	○			1	
	公共哲学研究	谷口隆一郎		2	○			1	
	現代社会理論研究	土方 透		2	○			1	
	社会情報学特論	鄭 鎬碩		2		○		1	
科目	租税法研究A	吉川保弘		2	○			1	(演習科目関連の講義科目履修) 1・2年次選択
	租税法研究B	野田扇三郎		2	○			1	
	租税法研究C	佐藤謙一		2	○			1	
	民事法（総則・物権）	木村裕二		2	○			1	
	民事法（債権）	木村裕二				○		1	
	民事法（親族・相続）	木村裕二		2	○			1	
経済・経営分野	経済学研究	柴田武男		2	○		集中	1	(演習科目関連の講義科目履修) 1・2年次選択
	組織行動論研究	八木規子		2		○		1	
	経営文化論	金子 納		2	○			1	
地域共生分野	埼玉地域政策研究	櫻井郁夫		2		○		1	(演習科目関連の講義科目履修) 1・2年次選択
	まちづくり論研究	平 修久		2	○			1	
	地域文化論	佐藤一子		2	○			1	
	地域教育論	若原幸範		2		○		1	
演習科目	租税法A演習I	吉川保弘		4		○		1	(演習科目関連の講義科目履修) 1・2年次選択
	租税法B演習I	野田扇三郎		4		○		1	
	租税法C演習I	佐藤謙一		4		○		1	
	まちづくり論演習I	平 修久		4		○		1	
	政治理論研究演習I	高橋愛子		4		○		1	
	憲法研究演習I	石川裕一郎		4		○		1	
	租税法A演習II	吉川保弘		4		○		2	(演習科目関連の講義科目履修) 1・2年次選択
	租税法B演習II	野田扇三郎		4		○		2	
	租税法C演習II	佐藤謙一		4		○		2	
	まちづくり論演習II	休講		4				2	
	政治理論研究演習II	休講		4				2	
	憲法研究演習II	休講		4				2	

修了要件 30単位以上、かつ修士論文またはそれに代わる研究成果を提出し審査に合格すること。

○印：週1回授業 ◎印：週2回授業

心理福祉学研究科

【概要】

心理福祉学研究科は、福祉社会・共生社会の担い手として貢献しうる高度な専門性をもった人材の養成を目的としている。さまざまな領域でひとを支援する業務や役割のなかで探究すべき課題を見いだし、その解決策を得ようとする人、現代社会のさまざまな問題のひとつもしくはいくつかに強い知的関心をもち、理解しようとする人、人間の本質とその日々の営みを理解しようと考えている人に、高度な専門知識の修得と、自ら問い合わせを立て回答を求める研究能力の獲得ができるよう指導する。

【心理福祉学研究科ポリシー】

ディプロマ・ポリシー

人間学的基礎の上に福祉社会の担い手として貢献しうる高度な専門性をもった人材の養成を目的として、それぞれの専攻分野の課題について自ら問い合わせを立て、回答を求める研究能力のあることを示したものに修士（心理福祉学）の学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー

1. 研究能力の涵養と人間学的基礎の確立のために「共通基礎」科目を置く。
2. それぞれの専攻分野において高度な専門知識を得させるために、「共生社会」「心理学」「対人援助」「児童学」の講義科目を置く。
3. 「演習科目」を置き、個々の学生の関心に応じて研究指導を行い、修士論文の完成に至らせる。

アドミッション・ポリシー

本研究科において求める人。

1. 社会福祉ならびに精神保健福祉の分野において高度な専門性の修得と援助技術の向上をめざす人を求める。
2. 発達・子育て支援の分野において高度な専門性の修得と人間理解の深化をめざす人を求める。
3. 現代社会で生じている多様な心の問題を理解し、心のケアの担い手となることをめざす人を求める。
4. ひとを支援する業務に従事する中で探究すべき課題を見いだし、自ら研究することを希望する人を求める。

【授業案内】

心理福祉学研究科の授業は研究科目と演習科目に分かれている。

演習科目は個々の学生に対する研究指導と論文作成指導を内容とし、同一教員が担当する研究演習Ⅰと研究演習Ⅱを履修しなければならない。

研究科目（講義科目）は、共通基礎科目、共生社会特論、心理学特論、対人援助特論、児童学特論に分かれ、必修の「研究法入門」以外はすべて選択科目である。それぞれの講義で取りあげる内容は副題として掲げられているので、各自の関心にしたがって履修する科目を選択されたい。

心理福祉学研究科

2019年度 大学院【福祉研】カリキュラム

科目群	授業科目	担当者	単位		開講期			対象学年	備考
			必修	選択	春学期	秋学期	その他		
研究科目	研究法入門	古谷野亘	2		○		集中	1	必修
	キリスト教人間学	五十嵐成見		2	○			1	
	調査研究法 I (量的研究)	古谷野亘		4		○		1	
	調査研究法 II (質的研究)	林 葉子		4		○		1	
	共生社会特論 I (福祉思想)	休講		2				1	
	共生社会特論 II (児童福祉制度論)	田澤 薫		2		○		1	
	共生社会特論 III (社会的養護の現状と課題)	中谷茂一		2	○			1	
	共生社会特論 IV (子ども虐待の背景と対応)	中谷茂一		2		○		1	
	共生社会特論 V (高齢者の孤立と社会関係)	古谷野亘		2	○			1	
	共生社会特論 VI (少子高齢社会と生涯学習)	小池茂子		2	○			1	
演習科目	共生社会特論 VII (高齢者福祉の歴史と介護保険制度)	古谷野亘		2		○		1	
	共生社会特論 VIII (地域包括ケア)	長谷部雅美		2	○			1	
	共生社会特論 IX (現代社会と精神保健福祉)	休講		2				1	
	心理学特論 I (対人認知と対人魅力)	西村洋一		2	○			1	
	心理学特論 II (老後の幸福感)	中原 純		2		○	集中	1	
	心理学特論 III (学習と動機づけの心理)	鎌原雅彦		2	○			1	
	心理学特論 IV (臨床発達心理学)	金谷京子		2	○			1	
	心理学特論 V (精神分析)	大橋良枝		2		○		1	
	心理学特論 VI (心理検査法)	藤掛 明		2		○		1	
	心理学特論 VII (ストレスマネジメント)	長谷川恵美子		2	○			1	
対人援助特論	心理学特論 VIII (健康と医療の心理学)	長谷川恵美子		2		○		1	
	心理学特論 IX (福祉現場の心理学)	堀 恭子		2	○			1	
	対人援助特論 I (ストレングスマodelのソーシャルワーク)	休講		2				1	
	対人援助特論 II (ナラティブ・ソーシャルワーク)	相川章子		2		○		1	
	対人援助特論 III (ソーシャルワーク・スーパービジョン)	田村綾子		2	○			1	
	対人援助特論 IV (ピアサポート)	相川章子		2	○			1	
	対人援助特論 V (スクールカウンセリング)	堀 恭子		2	○			1	
	対人援助特論 VI (ファミリーセラピー)	村上純子		2		○		1	
	対人援助特論 VII (アートセラピー)	藤掛 明		2	○			1	
	対人援助特論 VIII (スピリチュアルケア)	安部能成		2		○		1	
児童学特論	対人援助特論 IX (キリスト教とカウンセリング)	藤掛 明		2		○		1	
	児童学特論 I (児童理解)	田澤 薫		2		○		1	
	児童学特論 II (遊びの文化)	寺崎恵子		2	○			1	
	児童学特論 III (絵本の文化)	寺崎恵子		2	○			1	
	児童学特論 IV (児童文学)	松本祐子		2	○			1	
	児童学特論 V (音楽教育)	久保田翠		2		○		1	
	児童学特論 VI (異文化間教育)	佐藤千瀬		2	○			1	
	社会福祉学研究演習 I	休講		2				1	
	児童福祉研究演習 I	中谷茂一		2		○		1	
	高齢者福祉研究演習 I	古谷野亘		2		○		1	
演習科目	障害者福祉研究演習 I	休講		2				1	
	精神保健福祉研究演習 I	相川章子		2		○		1	
	発達心理学研究演習 I	堀 恭子		2		○		1	
	社会心理学研究演習 I	西村洋一		2		○		1	
	ソーシャルワーク研究演習 I	田村綾子		2		○		1	
	臨床死生学研究演習 I	藤掛 明		2		○		1	
	児童学研究演習 I	田澤 薫		2		○		1	
	児童文学研究演習 I	松本祐子		2		○		1	
	児童教育学研究演習 I	佐藤千瀬		2		○		1	
	社会福祉学研究演習 II	休講		4				2	
修了要件	児童福祉研究演習 II	休講		4				2	
	高齢者福祉研究演習 II	古谷野亘		4		○		2	
	障害者福祉研究演習 II	休講		4				2	
	精神保健福祉研究演習 II	相川章子		4		○		2	
	発達心理学研究演習 II	休講		4				2	
	社会心理学研究演習 II	休講		4				2	
	ソーシャルワーク研究演習 II	休講		4				2	
	臨床死生学研究演習 II	休講		4				2	
	児童学研究演習 II	休講		4				2	
	児童文学研究演習 II	休講		4		○		2	
	児童教育学研究演習 II	休講		4				2	

○印：週1回授業 ○印：週2回授業
30単位以上、かつ修士論文またはそれに代わる研究成果を提出し審査に合格すること。
長期履修制度利用者は、入学年次に演習科目Ⅰ、修了予定年次に演習科目Ⅱを履修すること。

(演習科目関連の講義科目履修)
1年・2年次選択

(演習I・IIは同一科目履修)
1年演習選択必修

(演習I・IIは同一科目履修)
1年演習選択必修

